

インフルエンザ予防接種について（説明書）

予防接種を受ける前に必ずお読みください。説明書を読んでいない場合、接種を受けることができません。

医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、副反応について十分に理解した上で接種を受けてください。

予診票は、接種する医師が予防接種の可否を決めるための大切な情報です。必ず事前に記入をして医療機関に持参してください。

※ 他のワクチン（新型コロナワクチン、带状疱疹ワクチンなど）との同時接種は、医師が認めた場合にのみ可能です。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありませんが、接種から数日間は、副反応など体調の変化が起こる可能性がありますので、次の予防接種を受ける場合は十分に体調を整えてから、余裕を持ったスケジュールで計画的に予防接種を受けてください。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。通常、初冬から春先に流行します。高熱や関節痛・筋肉痛、全身倦怠感などが突然現れ、せき、鼻水などの症状もみられます。普通のかぜに比べて、全身症状が強く、気管支炎や肺炎などの合併症を併発し、重症化することが多いのも特徴です。

インフルエンザの予防

●体の抵抗力をつける

十分な栄養と休養をとりストレスをためないようにしましょう。

●ウイルスをもらわない

人混みを避けましょう。マスクを着用し、手洗いとうがいをしましょう。

●空気の乾燥を防ぐ

室内では加湿器などを使って適度な湿度を保ち、空気の乾燥に気をつけましょう。

●予防接種を受ける

ワクチン接種によりインフルエンザによる合併症を予防し、健康被害を最小限にくい止めることができます。

インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザの重症化や合併症の発生を予防する効果があります。

インフルエンザ予防接種の副反応

注射部位が赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがあります。また、発熱、寒気、頭痛、倦怠感などがみられることがありますが、通常2～3日のうちになくなります。接種後、数日から2週間以内に発熱、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れるなどの報告があります。また、まれではありますが、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、ショックなど）が現れることがあります。

予防接種を受ける前に

インフルエンザ予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。気になることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医師や役場 健康衛生課に相談し、納得した上で接種してください。予診票は、接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。正しい情報を接種医に伝えてください。

予防接種を受けることができない人

- ・明らかに発熱のある人（一般的に37.5℃以上を指します。）
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ・予防接種を受けて、2日以内に発熱のあった人および全身性発疹（ほっしん）などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ・インフルエンザワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ・その他、医師が不適当と判断した人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの基礎疾患がある人
- ・過去に、けいれんを起こしたことがある人
- ・過去に、ぜんそくなどの呼吸器系の病気で治療を受けている人
- ・過去に免疫不全の診断を受けた人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ・インフルエンザワクチンの成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーを起こすおそれがある人

予防接種を受けた後の注意

- ・予防接種を受けた後30分間は、急な副反応がおこることがあります。医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- ・接種後24時間は、体調の変化に注意しましょう。
- ・入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- ・接種当日は、激しい運動や多量の飲酒は避けましょう。
- ・接種後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などの症状が現れたりした場合は、すみやかに医師の診察を受けてください。
- ・予防接種と同時に他の病気がたまたま重なってあらわれることがあります。